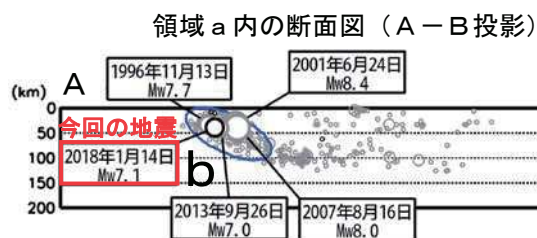
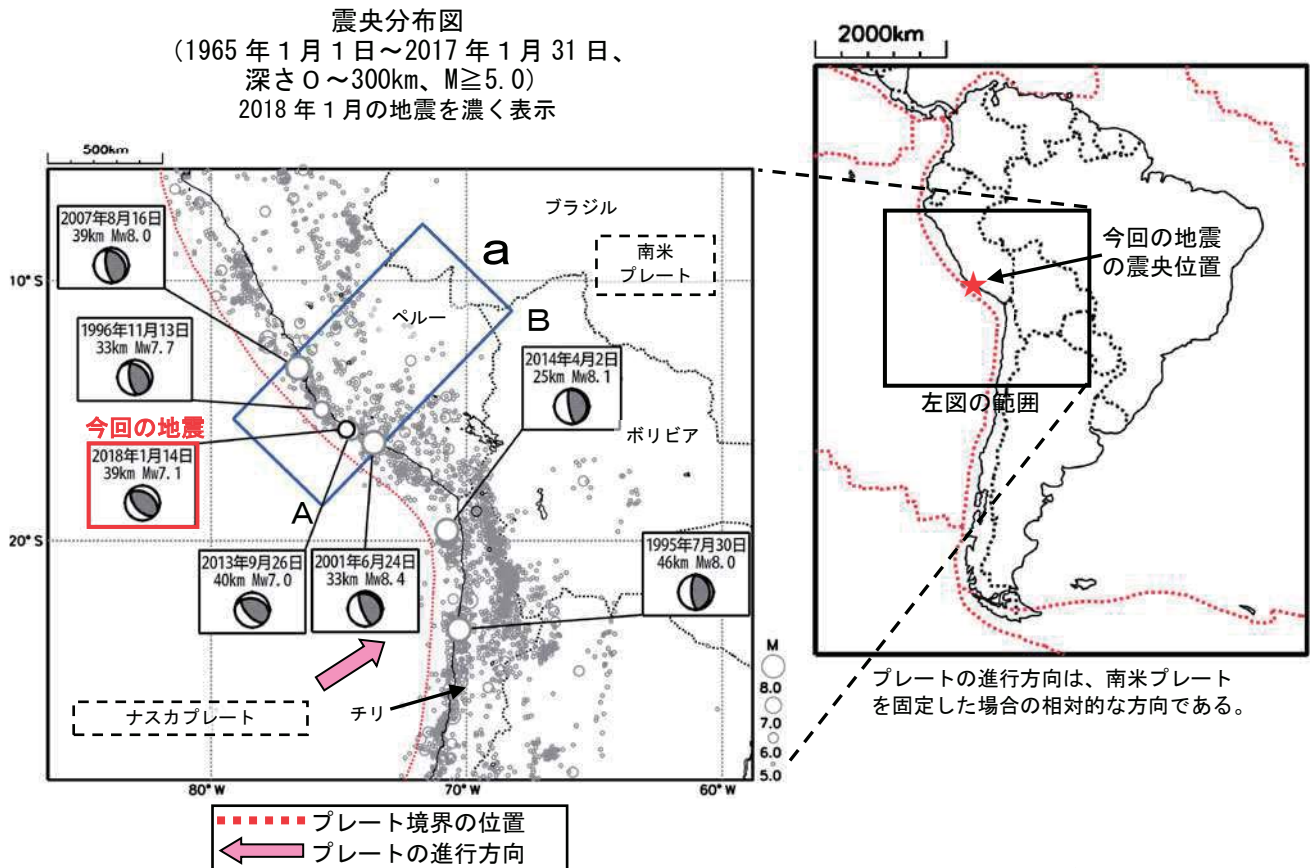


1月14日 ペルー沿岸の地震

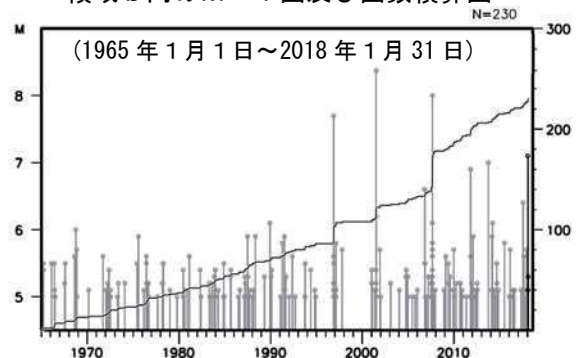
2018年1月14日18時18分(日本時間、以下同じ)にペルー沿岸の深さ39kmでMw7.1の地震が発生した。この地震は発震機構(気象庁によるCMT解)が北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、沈み込むナスカプレートと南米プレートの境界付近で発生した。

気象庁は、この地震に対して、同日18時42分に遠地地震に関する情報(日本への津波の影響なし)を発表した。

1965年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域a)では、M6.0以上の地震が度々発生するなど地震活動が活発な領域である。今回の地震から東南東方向に約100km離れた場所では、2001年6月24日にMw8.4の地震が発生し、死者139人、負傷者2,687人の被害が生じた。また、この地震により太平洋沿岸の広い範囲で津波が観測され、ペルーでは数m、チリのアリカで129cmなどの津波を観測した。日本国内でも根室市花咲で最大の高さ28cmの津波を観測した。



領域b内のM-T図及び回数積算図



※本資料中、今回の地震と2007年8月16日(Mw8.0)、2013年9月26日(Mw7.0)、2014年4月2日(Mw8.1)の地震の発震機構とMwは気象庁、その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。その他の地震の震源要素は米国地質調査所(USGS)による(2018年1月31日現在)。2001年6月24日の地震の被害は宇津の「世界の被害地震の表」、津波の高さは、米国海洋大気庁(NOAA)及び気象庁による。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.